

恵那山落合道道造り山行 06.11.18 鈴木正昭

昨年 10 月、復活しかけた古道、落合道から恵那山 (2191 ㍎) に登った。その際、古道修復に取り組んでいる樋口帯刀さん (70) に「来年の修復作業には是非、協力させて欲しい」と頼んだが、それが実現した。二人で標高差 1000 ㍎を登った一帯で刈り残したササを払う作業をしたが、時間切れであとは来年以降に残された。天然樹林の美しい姿と北、中央、南アルプスの主峰群への眺望。古道の価値の高さを痛感できた。ただ、二カ所で始まった砂防と土止め工事がこの価値をそこねはしないのか、気がかりな現場を見てしまった。▽11 月 13 日 (月) 自宅→落合本谷 (釜沢) →第 7 堰堤手前で駐車 7:50 駐車地点発→8:00 尾根取り付き→8:40 大滝分岐→9:15 三森分岐→10:55 倒木の平→11:55 天狗原 (1920 ㍎) 0:15 →1:05 川上道 (前宮ルート) 分岐→1:10 恵那一宮 (2127 ㍎) →1:50 天狗原→4:15 尾根取り付き点



標高 1300 ㍎付近に立つヒノキの大木。樹齢 200 年以上か。下枝の刈り払いがしてないので、荒々しい姿。樋口さんが絶賛する一本。

樋口さんの軽トラックに乗せてもらい、堰堤前から歩き出す。一帯の光景は昨年とは様変わりしていた。堰堤脇の斜面を削り取り、作業道を河原に延長する工事が進んでいた。国交省の新しい砂防ダム建設事業が始まったのだ。荒々しい岩の広がりだった右岸に広い路盤ができていて、渡渉の苦労もなく尾根取り付き点に着く。樋口さんが毎年ササ刈りをして整備した古道を

ひたすら登る。ササ刈りは昨年秋、上まで全部をほぼ終えたのだが、上部は一年でかなりもとのヤブに戻ってしまったという。ササ刈りの好適時期は 7, 8 月で、秋に刈っても、翌年の成長を抑えられないらしい。この日の予定は特にひどい標高 1900 ㍎から上 100 ㍎ほどの刈り払い。

作業現場まで標高差にして 1000 ㍎強を登る。休む時間もあまり取れないきつい行程だったが、楽しい道中であった。まず、樹林相の高度による多様性。人工林ヒノキ→



天狗原付近から見た南アルプス主峰。左側は赤石岳。右手の高峰が聖岳でその右奥に富士山の山頂部。

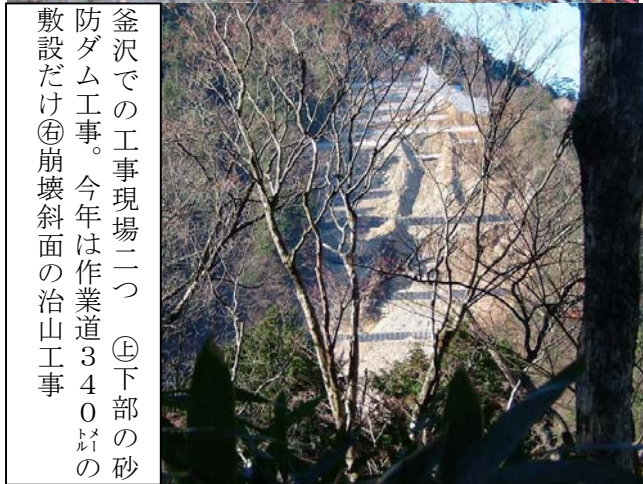
コウヤマキ→天然ヒノキ→コメツガ→シラビソ。林相の変化がはっきり分かる。標高 1000 付近のコウヤマキ林とその上部の天然ヒノキ林の巨樹には圧倒的な生命力や安定感を感じた。シラビソ帯に入った天狗原（樋口さん命名）付近からは、3つのアルプスの主峰がお出まし。いずれも、新雪の白銀の装い。南アルプスの聖岳の右奥には富士山の頭がほんの少し出ているのが見えた。北西方向には御岳、乗鞍、穂高連峰の3名山そろい踏み。中央アルプスはいずれも白く輝く木曾駒ヶ岳から空木岳、まだ黒い安平路山まで横に並んでいた。落合道は樹林帯の中が大半だが、この付近の敷地からの眺望は得難い価値を持つと思う。

ナタとノコギリでササや木枝を刈り払う。樋口さんは柄の長い大鎌で手際よくササを払う。私は作業途中で上方に向かい、今後の作業のための目印の布を取り付けながら、川上道に入り、標高 2127 付近の一宮の祠まで行き、引き返した。

現場まで長時間かかるので、実作業には1時間余しかとれなかった。目標作業のうち、少し残してしまっただが、登山には支障のない程度にすることが出来た。

自然度の高い古道の周辺で二つの新しい土木工事が始まったことには言いようのない恐れを感じた。国交省の工事は尾根取り付き付近の釜沢（標高約 850 付近）に3つの低砂防ダムと護岸を造る。約 10 億円

で、予算が付けば 09 年度完成が目標だという。これとは別に、ここからはるか上部の標高 1300 付近では、崩壊斜面の土止め工事が進行中。歩いていて、



釜沢での工事現場二つ ①下部の砂防ダム工事。今年作業道340mの敷設だけ ②崩壊斜面の治山工事



木々の間から隣の尾根に白い工事斜面が突然目に入り仰天。自然を切り裂いたような異様な景観だった。これは、林野庁の治山工事で、昨年崩壊した場所の「災害復旧緊急工事」。鉄棒を埋める工法で、これだけで2億円かかるという。両工事とも、2,30年前から継続してきた一連の土砂崩壊現象への防護事業の一環だが、新しい工事は上へ上へ、奥へ奥へと進む。既に、釜沢本谷には国交省が7つの堰堤、林野庁が4つの土止めダムを建設済みだ。放っておくと下流住家、住民に災害が及ぶ可能性があり、工事が防災に役立つのであれば、建設する価値はあろうが、両工事がそのような切実性を持っているとは思えない。

山や森も自然の変化の中にある。土砂崩壊もその一つであり、自然の一部だろう。土止め工事の跡には将来ハンノキなどを植栽して林地に戻すという。緑化再生がうまくゆくことを祈るばかりだ。しかし、至る所に人工斜面を造って、そこに緑が戻ったとしても、それは「山」と言えるだろうか。 完

＜恵那山落合道＞昨秋に報告した通り、落合道は明治の初めに、修験者として名高い実利（じつかが）行者（中津川市坂下町出身）が開いた道。登拝や作業路として使われたが、昭和40年代初頭に廃道となった。今は樋口さんの復活作業でヤブこぎなしで登れるようになったが、山頂まで登り6時間、下り4時間ほどかかるので、体力勝負となる。赤沢本谷上部の国交省作業道は砂防工事のため、第7堰堤のかなり手前で一般車は通行止め。歩くと堰堤まで40分ほど。事前許可を得れば、通行可能となる場合もある。